

2015年以降の世界の開発課題のあり方を考える  
シリーズ第4弾 シンポジウム「ポストMDGsを面白くするには！」

**開会挨拶**

山口 Beyond MDGs JAPAN 主催、国際連合広報センター後援のシンポジウム、「ポストMDGsを面白くするには！」をはじめさせていただきます。本日、司会を仰せつかりました国際協力NGOセンターJANICの事務局長の山口と申します。資料には、池上清子さんの名前が出ておりますが、急用ができて参加出来ないために急きょ、私のほうで司会進行を務めさせていただきます。本日のシンポジウムは、1部、2部、3部と3部構成でさせていただきます。第1部は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジについて。第2部は、防災について。そして、第3部は総括として、ポストMDGsを面白くするには何が必要か、それぞれ、専門家の方、あるいは活動家の方をお招きして、ディスカッションしていただきます。第2部と第3部の間に休憩を挟みますが、それ以外、1時半から4時半までという3時間の長丁場になりますが、どうぞ、最後までお付き合いください。

それでは、全体を始める前に、このBeyond MDGs JAPAN 事務局長であります仲佐保のほうからごあいさつさせていただきます。

仲佐 こんにちは。Beyond MDGs JAPANの国立国際医療センターの仲佐と申します。きょう、最初にタイトルを見ていただくと、「ポストMDGsを面白くするには！」ということで。このタイトルを用いました。何となく面白くないのと、やはりMDGsは八つだった。それが昨年の国連報告の中で、14。それも保健は三つから1個になり、さらにその後、SDGsということで、Sustainable Development Goals、環境も入れて、それも一緒にするんだと。要するに全ての要求を全部入れたものができそうだと。いうことは、目標ではなくて全てだというプロセスの分かりにくさと、何となく私たちの手から遠くなってしまってるんじゃないかという思い。何とか、少し面白くしたい。私たち、もっと関わってほしいという思いで、こういうタイトルにしました。何ができるか分かりませんが、きょうの最後に討論、最後の討論セッションでもその話が出るかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それと、このBeyond MDGs JAPANは九つの団体、このプログラムの裏に関係団体がありますが。学会、民間、NPO、公共、JICAも含めて作っている団体でございます。一つの、みんなで少し考えていこうということで、2年前に発足しまして、現在のメンバーを通じて、このようなシンポジウムを開催しております。これからも、決まるまで、何とか、こういう形でやっていきたいと思ひますし、外務省等にも声を伝えたいと思ひしておりますので、よろしくお願ひします。

あと、きょう、二つのUHCと災害Disaster、防災ですが、そのことについて簡単に説明したいと思ひます。一つはユニバーサル・ヘルス・カバレッジ。何それという人も居ると思ひます。これは、簡単に言えば全ての人が、全ての病気で、みんなが払える、可能なお金で治療を受けようと。実はこれは1961年、日本が皆保険制度で達成したものです。それ

を全ての国でやろうというのが、この考えであります。ただ、これには前段階があります。皆さんもご存じかもしれませんが、1979年のプライマリーヘルスケアという考えがWHO並びにUNICEFで掲げられました。2000年までに全ての人に健康です。Health For All by the Year 2000.これは同じです。全ての人。ただ、違うのは基本的な保健医療、3番目ができるだけ、できたらタダで。それを達成しようと。実は、これ二十何年間世界で行ってきました。ある程度、達成されたと言われていました。

UHCは何が違うか。全ては一緒。全ての人。2番目が何が違うか。基本的な医療だけじゃなくて、もっとニーズが高いわけです。がんで死ぬ人も居ます。脳溢血で死ぬ人も居ます。糖尿病で死ぬ人も居る。先進病で困ってる人も。そういういろんな疾患をさらに広げたいというのがUHCです。ただ、そこに、お金が必要だということで、現在、お金のことがかなり言われておりますが、基本的には三つです。カバレッジと種類とお金、これを三つを達成したいというのがこのUHCということで、第1部では、このことをさらに深めて何が問題なのか。このUHCでいいのかという議論をしていただきたいと思っています。

第2番目、災害。Disasterと。Disasterっていうのは、基本的には日本政府でも主に、自然災害が言われてると思います。でもDisasterには三つあります。一つが自然災害、地震、津波。2番目は人災害です。韓国のフェリー、人災害です。それともう一つ難しいのが複合災害 Complex disasterと言われるものです。代表がきょう話す原発。単に、事故ではないです。非常に政治的な問題を含まっております。さらにテロ、さらに戦争。実はDisasterの世界ではこの三つをDisasterと定義しまして、それに対するということを考えております。実は、これが非常に大変な問題ですので、きょうそれを深めていきたい。で、このUHCとDisaster、防災ですが似ているところがあります。実は、両方とも死ななくていい人、そういう人が死んでしまうわけです。保健を受けられなかったら死ぬわけです。災害のとき、何もなくなると何もしなかった死んでします。実は、両方ともそのための備え、社会のシステムを整えるという保険システムを作る、もう一つはプリピアデンス、防災システムをちゃんと作っておくことにより、何かが起こったときに対応できるシステムを作るということは一つの共通点です。

もう一つの共通点。私たちの目的は、個人個人が死んではいけないわけです。でも、実際、起こったとき何が大事かという、実はコミュニティーです。1人では何もできないけど、コミュニティーの力があれば、コミュニティーで保健医療サービスを受けられる。災害のとき、コミュニティーが強ければ生きていける。恐らく、その辺が共通のことだと。それぞれ違いますけど、実は日本政府ではこの二つをポストMDGsで、日本のこれを主流化したいという思いでやってきました。実は、きょうは、その二つをとりあげ、何とか少しでも面白くしたいと思っています。後半、いろんなディスカッション、また皆さん、討論もお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

山口 はい。仲佐さん、どうもありがとうございました。

(開会挨拶了)